

<研究課題名>

転移性膵腫瘍に関する後ろ向き多施設共同研究

<研究期間>

倫理委員会承認日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日

<意義・目的>

膵腫瘍は膵原発の膵管癌が大部分を占め、次に膵内分泌腫瘍が続きます。転移性膵腫瘍 (Secondary tumors of the pancreas) はWHO classification of Tumorsによると、4~15%と報告されており、その頻度は決してまれではありません。しかしながら、引用されている103例の剖検例では、悪性腫瘍剖検例の15%に認められ、その中で胃原発が20%と最も多く、次に肺18%、肝外胆管13%と報告されています。

多臓器悪性腫瘍の膵転移と原発性膵管癌を診断することにより、その後の治療方針が異なることも少なくありません。原発巣によっては、化学療法を変更したり、膵転移巣を切除することで長期生存が得られたり、診断をつけることによって今後の予後の予測に繋がる場合があります。

本研究は転移性膵腫瘍の原発臓器の内訳、確定診断に至った病理免疫組織学的診断方法、選択された治療法、予後について検討することで、生存中に診断される転移性膵腫瘍の実態を把握することを目的とします。

<方法>

島根大学医学部附属病院を含めた研究参加施設において 2005 年 1 月 1 日から 2015 年 8 月 31 日までに経験した転移性膵腫瘍を対象とした患者さんの背景因子について検査項目を集計します。

氏名、生年月日等の個人情報を除き匿名化された臨床情報、病理組織学的評価、治療法、生命予後等のデータを集計し、これによって得られたデータを統計的に解析し、転移性膵腫瘍の実態を把握する。

★本研究の対象となられる患者さんで本研究にご賛同いただけない方は、下記の<問い合わせ窓口>までご連絡ください。

<問い合わせ窓口>

島根大学医学部附属病院

島根県出雲市塩冶町 89-1

腫瘍センター 助教

氏名：森山 一郎

電話：0853-23-2111

内線：(医局) 2308